

生活科・自然と遊び単元の視点にしたインドネシア幼児教育のカリキュラム開発（1）

—幼稚園の歴史と現状と課題に関する基礎的研究—

ヒフィザヌール

（愛知教育大学大学院 教育学研究科）

Curriculum Development Research of Indonesia Kindergarten Based on the Perspective of
“Playing with Nature” Unit on Living Environmental Studies (1)

- Fundamental Study on History, Current Status and Issues of Kindergarten -

Hifizah Nur

(Graduate Student, Aichi University of Education)

はじめに

本研究は、「自然と遊び」にかかわる活動を取り入れたインドネシア幼児教育のカリキュラムを開発することを目的とする。

インドネシアは、現在、深刻な環境問題を持っている。水や空気の汚染、またごみの管理が十分ではないため、国民の健康には恐ろしい脅威となっている。豊かなはずの森林環境の破壊も多くの自然災害を引き起こす大きな問題となっている¹⁾。これらの環境問題は、解決しなくてはならないインドネシアの重要な課題である。

インドネシアにおける環境問題を解決するための長期的な課題の一つは、インドネシアの子どもたちに環境教育について教えることである。ところが、これまでのところインドネシアの教育課程、とりわけ幼児教育のカリキュラムには、自然と遊びを通して環境について考えたり、経験したりする視点が見られない。そのため、本研究によって子どもにとって身近な活動である遊びの視点を取り入れ、「自然と遊び」にかかわる単元を取り入れ

た幼児教育のカリキュラムを開発することが必要であると考えた。

佐島（1997）によると、環境教育を効果的に行うためには、子どもが小さいときから教えなければならないという²⁾。人間の脳は、0歳から7-8歳までに著しい成長を果たしている。この間に得られる環境体験や生活体験は、生涯を通して生きて働く力の源となるものである。

ティルブリ（1994）によれば、幼年期は周囲の環境に働きかける態度形成の基本となる時期であるため、環境教育にはとても大切な時期である。

スタップ（1978）は、環境に対する態度は一般的に幼年期からすでに表れると述べている。このスタップの考えは、他の研究の結果によっても支えられている。例えば、ジェンダーと語気の強い返答の関係は、すでに四歳の子どもにおいても現れることが確かめられている³⁾。

これらの先行参考を参考にして、インドネシアにおける自然と遊びをつなげる視点を得たいと考えているが、当然のことながら彼らの研究にはインドネシアにおける環境教育の視点は含まれていない。

「あそび」は人命、特に幼児のときに必要なことである。遊びのときに子どもは創造力を使いながら、

¹⁾ Nurhayati, Ratna, Brown, Alistair, *Understanding The Level of Natural Environment Disclosures by Indonesian Listed Companies*, http://www.unisa.edu.au/cags/APCEA/past_journals/vol12_3.pdf

²⁾ 佐島（1997）、『環境マインドを育てる環境教育』

³⁾ EPA Social Research Series, *Patches of Green: A Review of Early Childhood Environmental Education*, http://www.penrithcity.nsw.gov.au/uploadedFiles/patch_esofgreen.pdf

技能、体、認知と感情の力を開発している。遊びの活動を行いながら、子どもたちは周りの人や環境と結びつけられ、またそれらと対話をしている。遊ぶのときにも子どもたちは自己の内にある新しい機能を開発し、それによって子どもの自身の能力や感情が高められる。これは将来の様々な状況に対応するために重要なことである。⁴⁾

上で述べた遊びの利点から考えると、幼児期の子どもたちにはあそびを通して環境教育を教えることが最も対決な方法だと考えられる。

生活科に視点を移してみると、内容(6)において、自然と遊びについて述べられている。その内容は「身近な自然を利用したり、身近にある物を使ったりなどして、遊びや遊びに使う物を工夫してつくり、その面白さや自然の不思議さに気づき、みんなで遊びを楽しむことができるようにする」ことである⁵⁾。

この内容から考えられる自然と接続する一つの方法は、子供たちが自然から得られるもの、例えば、花、葉っぱ、枝、木の芽などで遊ぶことである。自然のものと遊ぶときに自分でルールや約束が決められ、楽しい遊び方を身につけることができる。これらのものによって、子供たちは遊びながら自然のものを直接に見る、触る、匂いをかぐといった感覚器官を働かせることができる。この方法を用いることで子供たちは自然から得られた不思議な経験が疑問になり、その不思議さについて分かってほしいという意欲が生まれると期待されている。

以上のような生活科における「自然と遊び」単

⁴⁾ Ginsburg, Kenneth R, et al, *The Importance of play Promoting Healthy Child Development and Maintaining Strong Parent-Child Bonds*, official journal of the American Academy of Pediatrics, — <http://pediatrics.aappublications.org/content/119/1/182.full.html>

⁵⁾ 文部科学省『小学校学習指導案要領解説 - 生活科』平成20年8月

元の視点に学び、インドネシアの幼児教育における環境教育カリキュラムの開発に生かすことが適切だと考えている。

本研究においては、次のように構成する。まず、第一章ではインドネシア幼稚園の歴史を述べる。そこでオランダの時代から独立時代までのインドネシア幼稚園の変遷を説明する。第二章においては、インドネシア幼稚園の現状と課題について述べる。その中でインドネシア幼稚園の現在の法的な位置づけおよび、幼児発達段階の基準と現在の課題について述べる。

I インドネシア幼稚園の歴史

1. オランダ植民地の時代(1914年-1942年)

19世紀にオランダの政府はオランダ人と先住民の貴族のために学校を設立し始めた。最初は小等学校、次に中等学校と高等学校が設立された⁶⁾。1914年にオランダ政府は初等学校に入る準備のためにフレーベルスクール(Froebel School)で、幼稚園と同じ年齢段階の学校が建てられた⁷⁾。

フレーベルスクールはオランダ初の幼稚園を作ったフリードリッヒ・ヴィルヘルム・フレーベル(Friederich Wilhelm Froebel)から名づけられた。

フレーベルスクールの目的は子どもたちが良いマナーを学ぶことができることと、オランダ語で読み書きと話をするができることである。フレーベルスクールでは、遊びや楽しい活動の遊具が使用されていた。フレーベルスクールの活動は飼育栽培、生活の活動、ブロック遊び、色彩と形を生かした造型活動、音楽と表現活動であった⁸⁾。

1922年7月3日、インドネシアの有名な国家教育

⁶⁾ Herlina, Indrati, Yuke, *Sejarah Perkembangan Kurikulum Taman Kanak-kanak di Indonesia dari Masa ke Masa*, Pusat Kurikulum, Badan Penelitian dan Pengembangan Kementerian Pendidikan Nasional, Jakarta, 2010, page 3. <http://puskurbuk.net>

⁷⁾ *ibid*, page 4

⁸⁾ *ibid*, page 12

の英雄であるキ・ハジャル・デワンタラ (Ki Hajar Dewantara) が、先住民族の子どものために幼稚園を設立した。その幼稚園がタマンインドリアと呼ばれた。タマンインドリアは「感覚の庭」という意味である。その幼稚園では、モンテッソーリとフレーベルの活動が採用され、子どもの感覚を磨くことがめざされた⁹⁾。

同じ時代には、イスラムの Aisiyah 女性連合がインドネシア最初のイスラム幼稚園、ブスタナル・アトファル (Bustanul Athfal) という幼稚園を設立した。その目的は以下の三点に示される。一点目はナショナリズムの態度を改善すること、二点目はヨーロッパ指向の幼児教育とバランスをとること、三点目は宗教を教えることであった。設立後、いくつかのイスラム団体とペサントレン (Pesantren-Islamic Boarding School) もイスラム的な幼稚園を設立した。

Aisiyah は 1912 年にアフマド・ダーランによって設立されたイスラム組織ムハマディアの女性部門である。設立の主な目的はインドネシア女性のイスラムの理解を高めるためである。もう一つの目的は、女性の権利を強化し、社会に存在する問題解決を支援することである。Aisiyah は積極的に教育、経済、また健康のフィールドに従事した¹⁰⁾。

2. 日本軍の時代 (1942 年—1945 年)

日本軍の時代の教育については、十分な記録が残されていない。この時代、フレーベルスクールは幼稚園に名称変更になった。幼稚園のプログラムは日本の音楽、日本の遊びと日本の話が中心だった¹¹⁾。

⁹⁾ ibid, page 13

¹⁰⁾ Nuryantono & Sukontamarn, *Islamic Women's Organization in Indonesia: Characteristic, Activities and Government Funding*, 2010, Biennial Conference of the Asian Studies Association of Australia.
http://asaa.asn.au/ASAA2010/reviewed_papers/Nuryantono-Nunung&Sukontamarn-Pataporn.pdf

¹¹⁾ Herlina, Indrati, Yuke, *Sejarah Perkembangan Kurikulum Taman Kanak-kanak di Indonesia dari Masa ke Masa*, Pusat Kurikulum, Badan Penelitian

3. 独立時代 (1945 年—2000 年)

戦後のインドネシア独立初期には、三つの種類の幼稚園が並存することになった。一つ目の幼稚園はオランダ植民地時代からあったタマンインドリアである。二つ目は一般幼稚園であり、三つ目はイスラムの幼稚園のラウダツル・アトファルであった。一般幼稚園はタマンインドリアより迅速に開発された。

政府に決められた幼稚園の目的は教育制度を通じて独立国家の文化の成長を維持するためであるということだった。この時代で幼稚園は 4 歳から 6 歳までの子どものために開催された。

1960 年代の幼児教育の目的は、社会主義の性格を持った人間を育成ことであった。

形成する習慣や性格は、相互扶助の精神を持つこと、高潔な性格を持つこと、他人の権利を尊重すること、マナーを持つこと、健康的に生活すること、創造性と話す勇気を開発すること、ルールを理解し従うこと、時間を守り規律を持つこと、そして誠実で効率的な生活をすることであった。

1968 年からの幼稚園の一般的目標および特定の目標は次の通りである。

一般的な目標は、一つの神様に捧げられ、高い知能を持ち、健康的で熟練し、神、社会および国家に責任を持つ、パンチャシラの資質を備えた人間を形成することである。

特定の目標には三つの目標がある。一番目は子供には物理的および精神的なニーズを満たすための機会を提供し、ユニークな個人としてすべての潜在能力を最適に開発することである。二番目は、国民に受け入れられるように、良い習慣を持つ子供を指導することである。最後には、小学校における授業に継続的に参加するために、物理的および精神的な成熟度を達成することである。

これらの目標を達成するため、具体的な学習活動の方法としては、教室の中に特定のテーマを持つ場所を設置して、自由に活動させる自由遊びを採用している。

dan Pengembangan Kementerian Pendidikan Nasional, Jakarta, 2010, page 15

1970年代にはインドネシア幼稚園について、以下のような視点がみられる。

1976年の幼稚園のカリキュラムは次の三つのことが強調されている。一番目は幼稚園を卒園した後、子供たちは、責任感を持つ善良な市民としての基本的な性格を形成していること。二番目は、心身ともに健康であること。三番目は、周りの地域と交流することのできる身体的、知的、情緒的および社会的準備を完了することができること、ならびに、生涯学習の原理に従って人格の完成を図るのに十分な知識、技能、価値観、基本的な態度を備えることである。

1977年省令第54条6節の改正によって、インドネシア幼稚園には次の三つの大きな変化があった。一つ目は、宗教的な教育は排除され、パンチャシラ道徳に統合されたこと、二つは、インドネシア語以外に民族の言葉の使用を認めたこと、そして三つ目は、学力教育が始まったことである¹²⁾。

1980年代には、プレイグループの形で3歳から4歳までの園室が開設された。

1984年には1976年のカリキュラムが改訂され、内容がいっそう強化された。この年の改訂のポイントは、地域に住むために必要な態度、知識、技能、創造性の発展の基礎を築くこと、小学校に入るための基本的な能力を育成すること、また早期教育と生涯学習の原則に従って自分自身を開発するための物資を提供することである。

また、1984年のカリキュラムには「国民闘争歴史」という教科が取り入れたという特徴もある。

1980年から1990年の間に、民間が運営するクルアーン（コーラン）幼稚園と他の種類の幼稚園を設立する運動があった¹³⁾。

1990年代に入って、1994年の幼稚園の役割や学習プログラムに変化が見られた。この時代に「遊び」は各学習の重点であった。具体的な変化は次のように書かれている。幼稚園の役割や学習プロ

グラムは、まず発達段階に応じて子どもの全体的な能力を開発すること、子どもと周りの環境と出会うこと、ルールや躾を教えること、また、遊びを楽しむ機会を与えることであった。

この時代に教師は決められた20のテーマを開発しなければならない。そのテーマは、僕・私、感覚、家族、家、幼稚園、飲食物、服、健康、動物、植物、乗り物、職業、水と空気、火、僕・私の国、太陽・月・星・地球・空、町・農損・海岸・山、レクリエーションである。

2000年代においては、国家教育文化省は様々な種類の代替幼稚園を設立した。このねらいは、社会の全てのレベルの子どもたちに幼児教育に参加する機会を保障することである。このことについては次の章で述べる。

4. インドネシア幼稚園教育史のまとめ

インドネシア幼児教育は、歴史に記録されているようにオランダ統治の時代にまでさかのぼることができる。1922年にタマンインドリアが設立されて以来、インドネシア幼児教育は90年にわたる、長い時間を経験している。

独立前からインドネシア幼児教育は二つの主流に分かれている。一つは西洋的な傾向を持つ幼児教育であり、もう一つはイスラムの価値観に基づいた幼児教育である。これらの二つの主流はインドネシアの独立あともまだ続いている。

インドネシア幼稚園のカリキュラムは1964年から1994年まで五回の改訂を迎えた。そこでは、幼児教育は与党政府のイデオロギーや短期的な政府の政策目標によって変遷を余儀なくされてきた。

たとえば、1964年頃の幼児教育は社会主義のイデオロギーの影響を受けていた。1968年においてはカリキュラムに宗教的な要素が再び取り入れられた。さらに、1976年には、再び宗教的な要素が排除され、パンチャシラ道徳に置き換えられた。この改革に対する反動として、80年代にはインドネシア社会のイスラム教育に対するニーズが高まり、クルアーン幼稚園を確立する運動が大きくなった。

¹²⁾ *ibid*, page 71

¹³⁾ *ibid*, page 17

にもかかわらず、これらのさまざまな変化は、インドネシア幼稚園の質の向上には影響しなかった。この間に、費やされ改革のエネルギーは多かったものの、適切な幼児教育カリキュラムの開発や教育方法の開発・研究のために費やされた努力はあまり多くなく、教育の質が向上したとは考えられていない。

II インドネシア幼稚園の現状と課題

1. インドネシア幼稚園の法的な位置づけと目的

2003年の教育法第20条によると、「幼児教育とは0歳から6歳までの期間を対象とした一つの指導活動であり、子供が次の段階の教育を進むための基盤を作り上げることができるように、心身の成長および発達を支援する実施である」とされる。

2003年教育法第20条第14節において、正式な教育は、初等教育、中等教育、ならびに高等教育で構成されるとされている。つまり、幼児教育は正式な教育とは位置づけられていないため、幼児教育への参加は義務ではない¹⁴⁾。

インドネシアの幼児教育は2003年教育法第20条、第28節で次のように記されている。

第一節 幼児教育は基礎教育の前に行っている。

第二節 幼児教育はフォーマル、ノンフォーマルとインフォーマルな教育に通じて行うことができる。

第三節 フォーマルな幼児教育は一般的な幼稚園(TK)、イスラムの幼稚園(RA)または他の同等の形である。

第四節 ノンフォーマルな幼児教育はプレイグループ(KB)、保育園(TPA)または他の同等の形である。

第五節 インフォーマルな幼児教育は家族と地域での教育によって保持されている¹⁵⁾。

2010年政府規制の第17条第61節に、正式な幼児教育の機能と目標は次のように記されている。

正式な幼児教育の機能は、幼児期の全潜在能力を育成し、開発することにある。従って、次の教育段階に入る準備を持つために開発の現段階に応じて、行動や能力の基礎を形成するということである。

正式な幼児教育の目標は二つある。一番目は一つの神を信じ、責任感を持ち、自身を持ち、気高い人格を持ち、健康的、知的、有能的、創造的、革新的、独立的、民主的な市民になるために潜在的な子どもの開発の基礎を創立することである。

二番目は成長期に運動感覚、知的、精神的、社会的な子どもの潜在能力を開発し、教育と遊びの環境で楽しみを果たしていることである。

2010年には、教育文化省、幼児教育の国家基準に関する閣僚規則第58号が発行された。

その基準は0歳から6歳までの子どもの様々な持続可能な開発の基準が含まれている。そのうえ、子どもは全ての側面の可能性が、あらゆる開発の段階で達成されることが期待されている¹⁶⁾。

幼稚園の5歳から6歳までの開発達成の基準は文末の表1の通りである。

この時代に、幼稚園で11のテーマのことを学んでいる。それらは、僕・私、環境、ニーズ、動物、植物、リクリエーション、職業、水・空気・火、コミュニケーションの道具、国家、自然である¹⁷⁾。

インドネシアの幼児教育の拡大、フォーマルな幼児教育から、ノンフォーマル、またインフォーマルな幼児教育までには良い開発である。しかし、その実施に際して、政府の仕事は深刻になり、幼稚園の量と質の改善に焦点を当てることが失われてはならないと考える。

政府によって設定された幼児教育の発達達成の基準は、日本の幼稚園の内容と同等と評価されるもの

¹⁴⁾ 河合 康、インドネシアの国家教育システム法及び特殊教育令における障害児教育関連規定、ページ3、<http://e-archive.criced.tsukuba.ac.jp/data/doc/pdf/2005/05/200505096387.pdf>

¹⁵⁾ インドネシア教育法2003年第20案、国家教育制度

¹⁶⁾ Herlina, Indrati, Yuke, *Sejarah Perkembangan Kurikulum Taman Kanak-kanak di Indonesia dari Masa ke Masa*, Pusat Kurikulum, Badan Penelitian dan Pengembangan Kementerian Pendidikan Nasional, Jakarta, 2010, page 26-27

¹⁷⁾ Ibid, page 130-131

であり、一般的に水準の高いものと考えられる。しかし、リテラシーと社会的な部分が幼児にはまだ重点がかけられすぎている。その背景は、4歳から6歳までの子供は焦点が自分自身を知ること、自己肯定化を強くすること、またはいい習慣を学ぶことだと考えられるからである。

リテラシー活動は、子供が楽しく活動を行うことができればより良い活動となるが、楽しさのみを追究すると、大切な育てるべき能力は十分に育成することができなくなる考えられる。

また、発達達成基準の中にはまだ足りない部分があると考えられる。それは、本研究の課題である自然・環境との関連がないということである。インドネシアで自然・環境に関わる問題解決が教育においては、未だに含められていない。幼児期の子供たちに自然や環境を導入する際には、長期的に問題を解決の行動を取る子供を育てることができるはずだと考えられる。

2. インドネシア幼稚園の類型

インドネシア幼稚園の概要は次の通りである。

インドネシアには48,000の一般幼稚園が建てられている。幼稚園の活動は一日につき約三時間行われる。

イスラムの幼稚園については、教育大臣ではなく、宗教大臣が所管している点に特徴があるが、四歳から六歳までを対象としている点は、一般の幼稚園と同じである。目標については、一般幼稚園と同じだが、イスラムの道徳、特にクルアーンを暗記することが加えられている。2004年のデータによると、その時点で約四分の一にあたる11,500のイスラムの幼稚園が建てられた¹⁸⁾。

一般とイスラム幼稚園のほかにもさまざまな種類の幼稚園が存在している。それらの種類は自然幼稚園、巡回型幼稚園、浜辺の子の幼稚園、クルアーン幼稚園、作業環境の幼稚園と礼拝場所の幼

稚園である。

自然幼稚園は地域の実情に応じて開催された幼稚園である。

巡回型幼稚園は、幼児教育を行う大学の学生によって開始された幼稚園である。学生が一定期間地域の場所を借りて幼稚園を開設し、その後、地域の人々が経営を引き継いでいく幼稚園である。

浜辺の子の幼稚園は、沿岸に住んでいる子どもたちに教育を提供するために設立されている。

クルアーン幼稚園は、クルアーンの内容に対応する優れた性格を持つ子どもたちを教育するために開催された。

作業環境の幼稚園は、企業の社員の子どもたちや会社の周辺の子どもたちに教育を提供をする幼稚園である。

礼拝場所の幼稚園は、礼拝の場所で始められた幼稚園である¹⁹⁾。

3. インドネシア幼稚園の課題

①幼児教育への参加率の低さ

2002年から2009年の間に、インドネシア幼児教育は急速に発展した。2002年、文部省の下にインドネシアの幼児教育総局(Directory of Early Childhood Education)が成立された。2004年には、幼児教育プログラムに参加する子供の率はわずか22%²⁰⁾であったが、2008年の政府のデータによれば50.62%の子供が幼児教育プログラムに参加した。これは政府が幼児教育への参加率を高める努力を行った結果であった。この七年間でインドネシアの政府は幼児教育の重要性について国民に理解させることにはかなり成功したので、幼児教育を実施する主体が多くなった。それにもかかわらず、幼稚園の世界を楽しむことができない子供が49.7%残されている点は、今後のインドネシア幼児教育の課題であろう。

¹⁸⁾ The World Bank, Royal Netherland Embassy Jakarta, Departemen Pendidikan Nasional Republik Indonesia, *Early Childhood Education and Development in Indonesia*, 2004.

¹⁹⁾ Herlina, Indrati, Yuke, *Sejarah Perkembangan Kurikulum Taman Kanak-kanak di Indonesia dari Masa ke Masa*, Pusat Kurikulum, Badan Penelitian dan Pengembangan Kementerian Pendidikan Nasional, Jakarta, 2010, page 17-18

²⁰⁾ The World Bank, Royal Netherland Embassy Jakarta, Departemen Pendidikan Nasional Republik Indonesia, *Early Childhood Education and Development in Indonesia*, 2004.

幼児教育への高低参加率の要因は各地域の幼児教育の重要性の市民の理解、各地域の裕福な家庭と貧しい家庭の数の差、または幼児教育の施設の存在の原因だと考えられる。しかし、最も影響が高い要因は幼児教育の重要性を市民が理解することであると考えられる。

たとえば、表 2 で示しているナンゴロエアチーフダールッサラム州（7 番）は 2004 年の津波による被害の後、経済的に貧しい地域となったが、幼児教育の参加率は 81.78% と高いことがわかった。これは、市民が幼児教育の重要性を十分に理解していることによるものと考えられる。

興味深いことに、他の州と比べるとジャカルタは最も発展した町として高い参加率を示すと予想される、実際には低位の参加率にとどまる。これは幼児教育の重要性に関するジャカルタ市民の理解が低い可能性を示している。むしろ、経済的な問題により、幼児教育にアクセスできない人が多数いるのではないかと考えられる。さらにジャカルタは、生活費全般が高いため、ジャカルタに住んでいる若い親が子供に幼児教育サービスに参加させるよりメイドによって自宅で託児サービスを受ける方を選択したとも考えられる。

② 幼児教育に対する政府の投資の低さ

2005 年に幼児教育のために政府の資金援助は、全国の教育予算の 1% に満たなかった。そのとき、政府は教育の予算の 80% を初等教育と中等教育の充実に使用した。2009 年に、幼児教育の予算は 2% に増やされた。そのうちの 30% は幼児教育の中央幼児教育総局設立の費用であった。その用途は、主には政策開発の予算と理事会の建物の建設のためである。60% はインドネシア全国の幼児教育の施設の改善とプログラム開発のためである。しかし、これらの資金がフォーマルな幼児教育に与えられる場合は、貧しい家庭から来た子供たちが利用することができなくなるおそれがある。

フォーマルな幼児教育では、たいてい全ての資金が保護者から徴収される。その資金は建物や施

設、また他の運用の費用に使用されている。幼稚園に入るために保護者は登録証明書、制服、団体の費用と毎月の保育費のために多額の料金を払わなければならない。

2004 年、ワールドバンクのデータによると、幼児教育のための限られた政府の資金は高い民間投資の原因になった。そのときから今まで、98% 幼児教育のサービス、フォーマルとノンフォーマルは民間団体が所有と管理している。政府の幼児教育のサービスはわずか 2% にとどまり、それは、都市部に集中している²¹⁾。

上の課題を見ると研究者ができることは、経済的に貧しい地域社会集団にも、幼児教育を普及するために、簡単で安価なカリキュラムを作成することであると考えられる。それは、フォーマルとノンフォーマルな幼児教育主催者によって、そのカリキュラムは簡単に実施できるためである。これで、経済的に弱い地域や社会集団から来た子供たちも幼児教育のプログラムに参加することができる。

③ 幼児教育の教師が量的・質的に低いことである。

最後の課題は、インドネシアの幼児教育の教師が量的に少なく、質的には低いという点である。その原因は、社会における幼児教育の重要性の理解はまだ低いので、幼児教育の教師になる希望者が少ないことである。さらに、都市以外は幼児教育の教師の給与は低いので、教師になる希望がさらに低いままとなる²²⁾。

量的な問題に対して、政府は既存メディアを通じて、幼児教育の重要性や政府からのプログラムについて、国民にキャンペーンする必要があると考えられる。

ほかには、教師の給与が増加させる必要がある。また、教師の基準化だけでなく、現場で幼児教育のプログラムの教師研修の具体的実践が奨励されるべ

21) The World Bank, Royal Netherland Embassy Jakarta, Departemen Pendidikan Nasional Republik Indonesia, *Early Childhood Education and Development in Indonesia*, 2004, page 29-30

22) Suryani, Lilis, Analisis permasalahan pendidikan anak usia dini dalam masyarakat Indonesia, 2007, Jurnal Ilmiah VISI PTK-PNF-vol.2, No. 1 <http://jurnal.pdii.go.id/admin/jurnal/21074248.pdf>

きだと考えられる。

おわりに

インドネシアにおける幼児教育の歴史は90年前から、かなり長い時間が経過している。しかし、質的と量的な面で、まだ多くの改善が必要である。

今後は生活科・自然と遊び単元の理論と実践の研究と日本の幼児教育に関する研究を行う事で、カリキュラム面での研究の深化を図りたい。また、インドネシア幼稚園についてより深く理解するために、実際に幼稚園に入り込んで観察することにより実践事例の研究を行う予定である。

研究の最後には、収集された全てのデータを分析し、生活科・自然と遊び単元の基づいた新しい幼児教育カリキュラムを開発することで本研究の体系化を図りたい。

参考文献

- 1) Nurhayati, Ratna, Brown, Alistair, *Understanding The Level of Natural Environment Disclosures by Indonesian Listed Companies*, http://www.unisa.edu.au/cags/APCEA/past_journals/vol112_3.pdf
- 2) 佐島 (1997)、『環境マインドを育てる環境教育』
- 3) EPA Social Research Series, *Patches of Green: A Review of Early Childhood Environmental Education*, <http://www.penrithcity.nsw.gov.au/uploadedFiles/patchesofgreen.pdf>
- 4) Ginsburg, Kenneth R, et al, *The Importance of play Promoting Healthy Child Development and Maintaining Strong Parent-Child Bonds*, official journal of the American Academy of Pediatrics, <http://pediatrics.aappublications.org/content/119/1/182.full.html>
- 5) 文部科学省『小学校学習指導案要領解説 - 生活科』平成20年8月
- 6) Herlina, Indrati, Yuke, *Sejarah Perkembangan Kurikulum Taman Kanak-kanak di Indonesia dari Masa ke Masa*, Pusat Kurikulum, Badan Penelitian dan Pengembangan Kementerian Pendidikan Nasional, Jakarta, 2010, page 3, [http://www.puskurbuk.net/downloads/viewing/Naskah/A1_8+SEJARAH_KURIKULUM_EDISI_2010_\(final\)/1_TK/SEJARAH_TK_edit_Puskur_11_jan_2011.pdf/](http://www.puskurbuk.net/downloads/viewing/Naskah/A1_8+SEJARAH_KURIKULUM_EDISI_2010_(final)/1_TK/SEJARAH_TK_edit_Puskur_11_jan_2011.pdf/)
- 7) *ibid*, page 4
- 8) *ibid*, page 12
- 9) *ibid*, page 13
- 10) Nuryantono & Sukontamarn, *Islamic Women's Organization in Indonesia: Characteristic, Activities and Government Funding*, 2010, Biennial Conference of the Asian Studies Association of Australia. http://asaa.asn.au/ASAA2010/reviewed_papers/Nuryantono-Nunung&Sukontamarn-Pataporn.pdf
- 11) Herlina, Indrati, Yuke, *Sejarah Perkembangan Kurikulum Taman Kanak-kanak di Indonesia dari Masa ke Masa*, Pusat Kurikulum, Badan Penelitian dan Pengembangan Kementerian Pendidikan Nasional, Jakarta, 2010, page 15
- 12) *ibid*, page 71
- 13) *ibid*, page 17
- 14) 河合 康、インドネシアの国家教育システム法及び特殊教育令における障害児教育関連規定、ページ3、<http://e-archive.criced.tsukuba.ac.jp/data/doc/pdf/2005/05/200505096387.pdf>
- 15) インドネシア教育法 2003 年第 20 案、国家教育制度
- 16) Herlina, Indrati, Yuke, *Sejarah Perkembangan Kurikulum Taman Kanak-kanak di Indonesia dari Masa ke Masa*, Pusat Kurikulum, Badan Penelitian dan Pengembangan Kementerian Pendidikan Nasional, Jakarta, 2010, page 26-27
- 17) *Ibid*, page 130-131
- 18) The World Bank, Royal Netherland Embassy Jakarta, Departemen Pendidikan Nasional Republik Indonesia, *Early Childhood Education and Development in Indonesia*, 2004.
- 19) Herlina, Indrati, Yuke, *Sejarah Perkembangan Kurikulum Taman Kanak-kanak di Indonesia dari Masa ke Masa*, Pusat Kurikulum, Badan Penelitian dan Pengembangan Kementerian Pendidikan Nasional, Jakarta, 2010, page 17-18
- 20) The World Bank, Royal Netherland Embassy Jakarta, Departemen Pendidikan Nasional Republik Indonesia, *Early Childhood Education and Development in Indonesia*, 2004.
- 21) The World Bank, Royal Netherland Embassy Jakarta, Departemen Pendidikan Nasional Republik Indonesia, *Early Childhood Education and Development in Indonesia*, 2004, page 29-30
- 22) Suryani, Lilis, Analisis permasalahan pendidikan anak usia dini dalam masyarakat Indonesia, 2007, Jurnal Ilmiah VISI PTK-PNF-vol.2, No. 1 <http://jurnal.pdii.go.id/admin/jurnal/21074248.pdf>

表 1. 発達達成の基準

開発の範囲	発達達成の基準	
	4歳-5歳児	5歳-6歳児
I. 宗教と道徳	<ol style="list-style-type: none"> 1. 自分の宗教の神を知っている 2. 礼拝の動きを模倣する 3. 何かをする前・した後にお祈りする 4. 良い・悪い行動を知っている 5. 良い行動を習慣になる 6. 挨拶をする 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 自分の宗教を知っている 2. 崇拝するために使用される 3. 貴族の振る舞いを理解する。 4. 良い・悪い行動を区別する 5. 儀式や宗教上の休日を知っている 6. 他の人の宗教を尊敬する。
II.A. 物理的・粗大な動き	<ol style="list-style-type: none"> 1. 動物や風に吹かれて木々や飛行機の動きを模倣できる 2. ぶら下げを行う 3. 協調的に動く、ジャンプ、走る 4. 方向に何かを投げる 5. 何かを適切にキャチする 6. 予想通りに動く 7. 方向に何かをける 8. 教室外での道具で遊べる 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 強制的に動ける、バランス、柔軟性や敏捷性を訓練する 2. ダンスや体操をすることによって協調的に手や足や頭を動く 3. ルールで物理的なゲームをする 4. 右左手を熟練して使用する 5. 個人衛生活動をする
II.B. 物理的・滑らかな動き	<ol style="list-style-type: none"> 1. 垂直線、水平線、曲線、円光などを作成する 2. 形をトレースする 3. 複雑な動きを目と手を協調する 4. 様々な道具で形を作成するために徒手運動をする 5. 様々な道具で表現をする 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 自分の想像で絵を描く 2. 形を模倣する 3. 様々な道具や活動で探る 4. 正しくステーションナリーを使用する 5. パターンの通りに切断する 6. 正しく画像を貼る 7. 詳細的に絵を書く動きで表現する
II.C. 健康的	<ol style="list-style-type: none"> 1. 年齢と体重が適切である 2. 年齢と体長が適切である 3. 体重と体長が適切である 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 年齢と体重が適切である 2. 年齢と体長が適切である 3. 体重と体長が適切である
III.A. 認知的	<ol style="list-style-type: none"> 1. 道具の昨日を知る 2. 象徴遊びに道具を使用する（例：椅子は車のように遊ぶ） 3. 自分に関連付けられている原因と結果を認識する 4. 日動生活の簡単な概念を認識する（例：くらい、雨、明るい） 5. 自分のアイデアを表現する 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 機能的に道具を分類する 2. 探索活動をする 3. 計画を作る 4. 環境について原因と結果を認識する 5. 遊びのテーマを選択するためにイニシアチブを取る 6. 日常の簡単な課題を解決する
III.B. 形、色、サイズとパターン	<ol style="list-style-type: none"> 1. 形や色やサイズで対象を分類する 2. 同じまたはペアのグループで対象を分類する 3. AB-AB、ABC-ABC のパターンを知る 4. 5シリーズのサイズや色でソートする 	<ol style="list-style-type: none"> 1. サイズに基づいて区別する（例：以下、以上、最も） 2. 形や色やサイズで対象を分類する 3. ABCD のパターンを知る 4. 小さいから大きいまでの対象をソートする
III.C. 数字の概念、数字の記号と文字	<ol style="list-style-type: none"> 1. 多く・少しの概念を知る 2. 1 から 10 まで数える 3. 数字の概念を知る 4. 数字の記号を知る 5. 文字を知る 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 1 から 10 までを表現する 2. 記号と数字を一致させる 3. 母音と子音を知る

IV. A. 言語・言葉を受け入れる	<ol style="list-style-type: none"> 1. 他人の言葉に耳を傾ける 2. 一緒に与えられている二つの命令を理解する 3. 読んであげる物語を理解する 4. 形容詞の区別を知る 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 一緒に与えられている幾つかの命令を理解する 2. 複雑である文を繰り返す 3. 遊びのルールを理解する
IV. B. 言語・言葉を表す	<ol style="list-style-type: none"> 1. 簡単な文を繰り返す 2. 簡単な質問を答える 3. 感情を伝える 4. 言葉を伝える 5. 意見を伝える 6. 欲望や反対な意見の理由を伝える 7. 聞いたことある話を伝える 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 複雑な質問を答える 2. 口頭で伝える、語彙、読み書き算数の準備のためにおなじみの記号 3. 完全な構造を持つ単純な文を作る。 4. アイデアを表現する複数の単語を持っている。 5. 果たしてきた話すを続ける
IV. C. リテラシー	<ol style="list-style-type: none"> 1. 記号を知る 2. 周りの動物やものの音を知る 3. 有意義な落書きをする 4. 文字を模倣する 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 知っている記号を伝える 2. 周りのものの始めの文字を知る 3. 同じ始めの文字のもののグループを伝える 4. 文字の形と音の関連が理解する 5. 自分の名前が読める 6. 自分の名前が書ける
V. 社会的・感情的	<ol style="list-style-type: none"> 1. 活動を選ぶ時に自立する 2. 友人を共有する、または手伝う 3. 遊びの時に競争に熱心である 4. 感情の制御 5. 遊びのルールを守る 6. 自信を持つ 7. 環境や自分自身を守る 8. 他人に対する敬意 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 友人を共有する 2. 他人に対する寛容 3. 雰囲気に応じて感情を示し 4. 地域に応じておなじみのマナーをする 5. ルールやしつけを知る 6. 共感を示す 7. 永続的にする 8. 誇りを持つ 9. 他人の長所を認める

[出典: Herlina, Indrati, Yuke, *Sejarah Perkembangan Kurikulum Taman Kanak-kanak di Indonesia dari Masa ke Masa*, Pusat Kurikulum, Badan Penelitian dan Pengembangan Kementerian Pendidikan Nasional, Jakarta, 2010, page 143-149]

表 2. 2008 年の幼児教育に参加率

番号	州	0 歳から 6 歳児の数	幼児教育に参加の数	率
1	DKI Jakarta	1,164,583	496,470	42,63
2	Jawa Barat	5,187,613	2,023,072	39,00
3	Banten	1,369,724	431,118	31,47
4	Jawa Tengah	3,417,369	2,120,069	62,04
5	DI Yogyakarta	356,917	321,357	90,04
6	Jawa Timur	4,708,453	3,596,988	76,39
7	Nanggroe Aceh Darussalam	580,676	474,868	81,78
8	Sumatra Utara	1,724,233	474,247	27,50
9	Sumatra Barat	563,646	348,949	61,91
10	Riau	746,721	330,261	44,23
11	Kepulauan Riau	117,351	91,054	77,59
12	Jambi	619,101	317,792	51,33
13	Sumatra Selatan	751,389	356,892	47,50
14	Bangka Belitung	131,186	112,002	85,38
15	Bengkulu	217,449	115,550	53,13
16	Lampung	954,847	439,869	46,07
17	Kalimantan Barat	660,849	219,494	33,21
18	Kalimantan Tengah	243,691	143,190	58,76
19	Kalimantan Selatan	605,993	233,657	38,56
20	Kalimantan Timur	600,879	200,868	33,43
21	Sulawesi Utara	275,054	128,170	46,60
22	Gorontalo	174,836	103,841	59,39
23	Sulawesi Tengah	371,266	144,346	38,88
24	Sulawesi Selatan	1,095,025	494,996	45,20
25	Sulawesi Barat	233,583	102,770	44,00
26	Sulawesi tenggara	333,223	214,802	64,46
27	Maluku	278,506	89,928	32,17
28	Maluku Utara	157,445	90,902	57,74
29	Bali	429,384	193,878	45,15
30	Nusa Tenggara Barat	564,741	321,079	56,85
31	Nusa Tenggara Timur	715,464	208,537	29,15
32	Papua	317,530	99,863	31,45
33	Papua Barat	178,053	68,803	38,64
	Total	29,847,830	15,109,682	50,62

[出典：Direktorat Pembinaan Pendidikan Anak Usia Dini, *Mengenal Pendidikan Anak Usia Dini di Indonesia*,

<http://www.paud.kemdiknas.go.id/>]